



2024年11月12日

各位

会社名 株式会社いなげや
 代表者名 代表取締役社長 本杉 吉員
 コード番号 8182 東証プライム
 問合せ先 専務取締役 羽村 一重
 (TEL 042-537-5111)

2025年3月期第2四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2024年6月24日に公表いたしました2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想値と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想値と実績値との差異（2024年4月1日から2024年9月30日）

（百万円未満切捨て）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	127,000	600	550	1,631	35円19銭
実績値(B)	127,791	287	274	2,463	53円13銭
増減額 (B)-(A)	791	△312	△275	832	
増減率 (%)	0.6%	△52.1%	△50.0%	51.0%	
(ご参考) 前中間期実績 (2024年3月期中間期)	129,199	1,292	1,400	786	16円96銭

2. 差異の理由

第2四半期（中間期）における日本経済は、雇用・所得環境が改善するなか、緩やかな改善傾向にある一方、円安やエネルギー価格の上昇が続いており、お客さまの生活防衛意識は依然として高い状態が継続しております。

このような状況のもと、当社グループでは競合他社との差別化のため、積極的な既存店の大型改装を行うとともに、生鮮、惣菜、インスタペーパーの強化や新鮮なネタにこだわった「鮮魚鮓」の展開を拡大するなど「こだわり商品」提供に注力いたしました。また、イオングループのプライベートブランドである「トップバリュ」の拡大を進め、「価値」と「価格」の消費者の二極化への対応を行ってまいりました結果、営業収益は前回予想を上回ることになりました。

販売費及び一般管理費については販促の電子化、物流便の見直し、フルセルフ・セミセルフレジの導入が終了し、お客様レジ待ちストレス解消とレジ人時の効率化など、サービスレベルを維持しつつ値上がりする各種費用の増大抑制にも努めたものの、当初計画より超過となり営業利益、経常利益においては前回予想を下回る結果となりました。

一方で、本日公表の「特別利益（関係会社株式売却益）の計上に関するお知らせ」にて公表のとおり、当社の関係会社であった株式会社ウエルパーク株式をウエルシアホールディングス

株式会社へ株式譲渡を行ったことから、当該売却益を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益が前回予想を上回る結果となりました。

以上